

(Ⅱ-6)

市街地の河川空間について

○東洋大学 工学部 学生員 同町 正之
 東洋大学 工学部 学 生 山本 貴幸
 東洋大学 工学部 学 生 鈴木 信弘
 東洋大学 工学部 正 員 福井 吉孝

1、はじめに

我々は、既成の市街地を流れる河川に着目して、その失われてしまった或は失われつつある川に対する親水感を、どのようにして復活或は増進させていくべきかを考えてきた。

その一環として一般の人がどのような河川計画、改修を望んでいるのかを考え、前報¹⁾では、東洋大学の土木工学科の学生を対象に、外的基準として川を「人工的な公園にする」ことの賛否を問うアンケートを行い、賛成派を人工指向、反対派を自然指向と見なし、数量化Ⅱ類を用いて整理し考察してみ、大まかではあるが人がなにを目安にして人工的な河川と自然のままの河川を区別しているかの指針が得られた。本報では更にアンケート調査を行い、人工指向と自然指向について考えてみた。

2、アンケートの集計整理

今回のアンケート調査も、項目は前報と同じものを使用して、東洋大学土木工学科の4年生及び埼玉県内にある女子大の学生50人を回答者として数量化Ⅱ類を用いて整理した。

それぞれのアンケート結果より算出した結果であるカテゴリー-数量は表1である。

外的基準のスコアは、東洋大生は人工指向で(-0.6152)、自然指向で(0.9228)となり、女子大生は人工指向で(-0.9897)、自然指向で(0.3849)となった。

外的基準の判別の度合を表す相関比(η^2)は、 $0 \leq \eta^2 \leq 1$ の範囲をとり1に近いほどよく判別している。前回は $\eta^2 = 0.3439$ となり、今回はそれぞれ $\eta^2 = 0.5677$ 、 $\eta^2 = 0.3809$ が求まり前回より高い値となった。

3、アンケートの結果について

図1、2、3は、それぞれの回答者ごとの判別得点分布である。3つの図とも人工指向の人の得点はマイナス側に集まっており、人工指向、自然指向を比較的好く分けるアンケートだったということが判る。

「人工指向」と「自然指向」の回答数は、東洋大生はそれぞれ前回と同じ30名、20名となり、女子大生は16名、34名となった。比べてみて女子大生の方が自然指向に賛成とした人が圧倒的に多い結果となった。

これは、女の人が河川とその周辺の整備や美化をある程度望みながらも自然という言葉の響きに心を動かされて

Item No	カテゴリー-数量 (東洋大の学生)		カテゴリー-数量 (女子大の学生)	
1	0.01187	-0.08707	-0.16883	0.59858
2	-0.23790	0.38815	0.12384	-0.39217
3	-0.05234	0.16573	0.15767	-0.25725
4	-0.09550	0.11211	0.27571	-0.15509
5	0.23394	-0.66584	-0.24104	0.51220
6	-0.10827	0.49323	-0.07726	0.56657
7	-0.08818	0.46296	-0.39968	0.84932
8	-0.58239	0.22649	-0.21811	0.03551
9	-0.06571	0.29936	0.11019	-0.31361
10	-0.17672	0.50298	-0.04115	0.06172
11	0.21337	-0.14224	0.29970	-0.19980
12	-0.02743	0.00866	0.06831	-0.06305
13	-0.03223	-0.16923	-0.33227	0.85440
14	0.00547	-0.06295	0.27659	-2.02831
15	-0.09117	0.56002	0.05048	-0.58052
16	-0.3255	-0.3162 0.2954	-0.1672 0.0205 0.0678	

表1、数量化Ⅱ類による整理結果

しまったのではな
いと思われる。

図3からも、自
然指向の分布がマ
イナスの方にきて
いることから判
る。

4. 考察

前回の結論とし
ては、自然指向派
は、河及びその周
辺は自然のままが
よく人の手を加え
る必要はなく、人
工指向派は、河及
びその周辺の美化
が第一でその上で
河と親しめる空間
や建築物を造る必
要があるという結
論だった。

しかし、今回の
アンケート調査で
は、自然指向派の
中にも河川に親水
感を高めるものを
設置することを認
めるという人が多数みられた。

これらのことから河川は、本当の生のままではなく、河川や周辺に人の手を加えてもよいから近づきや
すい環境を考えていく必要が感じられた。

5. おわりに

前回、今回のアンケート調査は、集計、整理等を容易にするため、年齢や性別のバラツキをおさえて行
った。その結果、一般の人達の河川及び河川環境に対する感じ方が、概略的には捕らえられた。しかし今
後は、実際に河川の近くに住んでいる人達、河川の周辺で働いている人達そしてよく川を利用する人達、
つまり河川空間とのかかわり合いが深い人達を、対象にしてより親愛感のもてる良い河川及びその周辺環
境造りについて考えていくつもりである。

図1、判別得点分布

(東洋大生：前年度)

○ - 人工指向
× - 自然指向

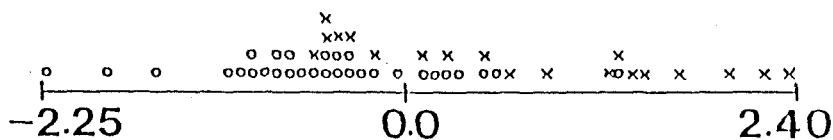


図2、判別得点分布

(東洋大生：今年度)

○ - 人工指向
× - 自然指向

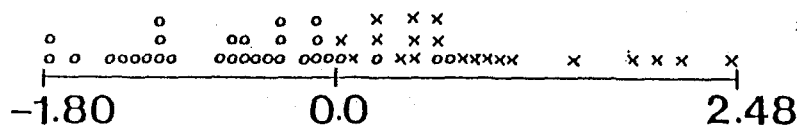
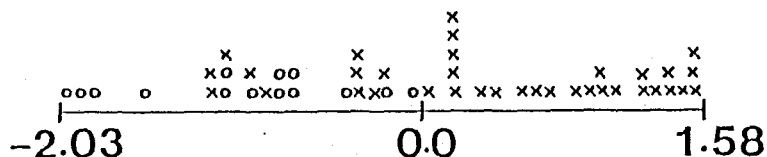


図3、判別得点分布

(女子大生)

○ - 人工指向
× - 自然指向



<参考文献> 1) 同町、福井ら：市街地の河川環境についての意識調査、第44回年次講演会

2) パソコン統計解析ハンドブック II：田中、垂水、脇本編

3) 多変量解析のはなし：有馬、石村著